

# ASAGOiNG

2017.06 no.4

## Index

### ASAGOiNG 2

朝来市の人と、まちと  
あだちファーム・足立雄一郎さん

### ACTiNG 4

朝来市で活動する  
生野マルシェ

### WORKiNG 5

朝来市で営む、働く  
吉井建設株式会社

### ITOiNG 6

糸井地域

YOU ARE THE FUTURE OF OUR TOWN!

TAKE FREE

# ASAGOING

## 朝来市の人と、まちと

あだちファーム  
足立雄一郎さん(和田山町)

## この地で担う

### 夢への挑戦

養父市で生まれ育ち農業高校を卒業後、サラリーマンとして林業に関係する仕事に13年間務めた。しかし、林業は長期スパンで先の見えづらい仕事ゆえに大きな意義はあるものの、自身が面白さを感じる事が出来なかった。一方で高校時代から農業には興味があり、会社員時代も家庭菜園をしていた程、野菜作りには興味があった。もともと自分で何かをつくりだす仕事がしたいという思いがあり、農業で使う機械も揃っていたので、「今しかない!」と農業で生きていくことを決意した。それから12年。今では糸井地域の農地を守る担い手として最前線で仕事に取り組んでいる。

### 農業と共に

「めいっぱい働かないといけない、休みもなくほんまに大変な仕事だけど…」実際に農業を始めてみると、家庭菜園とは違うまくできない。とにかく実践でトライ&エラーを繰り返し、経験から学んでいった。そうして葉の色や花の大きさなど植物の状態をしっかりと見ることで「やっと掴めてきた。」と感じるまでになった。環境に左右され、「このやり方で大丈夫。」という確実な方法がない難しさは常にあるが、農業を始めて以来「農業を辞めよう。」と思ったことは一度もないそうだ。それはやっぱり厳しさ以上のやりがいがあるから。農業を始めた頃からつけている日記は、今では足立さんのバイブル本にもなっている。そんなバイブルを見ながら、米や野菜の状態を予測して農作業に取り掛かる。「適期に作業を施し、いい野菜やお米が出来た時やお客様から『美味しい』との言葉を頂いた時が農業をしていてよかったと思う瞬間です。」

### 培ってきたのは農業だけじゃない

初めの頃は新米農業者ということで、なかなか誰も相手にしてくれず、地域の中で関係をつくるのに10年かかった。しかし今では人が寄ってきてくれる。地域の方が話を聞いてくれ、知識も教えてくれる。草刈りを手伝ってくれたり、道具や機械を貸してくれたりする。「農業は1人では出来なくて、人との繋がりや助けを借りないと出来ない仕事だと気付かされました。」と足立さん。お世話になっている方たちからの「頼むで!荒れんように守ってよ!」という言葉がなんとも嬉しくありがたい。人間関係の広がりには地域だけに収まらない。販路開拓の為、神戸の飲食店などを対象に飛び込みで営業した際にはこんな言葉を突き付けられた事もあった。「米は味じゃない。繋がりや。繋がりを変えられん。」どんなに美味しい米を作っても、これまでの信頼関係がないと取り合ってもらえないことを知った。そこで少しずつお願いし、買ってもらえるようになったのだ。最近では個人のリピーターも徐々に増え、その繋がりがきっかけで販路になる事も多い。「すべては繋がり。本当に感謝せん。」必死で駆け抜けてきた日々の中で、気が付くと、足立さんの周りにはたくさんのサポーターが集まっていた。

農業を選んだその姿からは“辛さ”を全く感じない。足立さんの日々の中にはたくさんの感謝があった。人に対しても、環境に対しても、「ありがとう。」の気持ちを持つことで優しさも広がり、そんな積み重ねが仲間や応援者を増やしていく。どこで何をやるにしても。



あだちファーム  
【所】朝来市和田山町高生田654-2  
【問】079-666-8520

## めぐみまい 大かつらの恵米

あだちファームではお米8割、野菜2割で生産しています。管理している田んぼの量は約10町。なかなか想像の出来にくいこの数字。数で言うと、40枚以上の田んぼをほとんど1人でやっているというから驚きです。忙しい日々の中で目指しているのは、とにかくおいしいお米や野菜をつくること。お米づくりをする舞台“糸井地域”は、縦に長い集落で、山の方にいくと積雪も多く寒暖の差が大きい為、農業をするには厳しい環境だが、豊かな自然環境はお米にとって最適。そんな自然の恵みを存分に受けとり育ったお米には「大かつらの恵米」という名がつけられています。



### 1 「大かつらの恵米」が育つ場所 きれいな水 糸井川

田んぼに引いているのは、東床尾山を源流とする糸井川の水。円山川の支流でもある糸井川には、カジカガエルやカワヨシノボリなどの珍しい生き物が生息し、6月中旬から下旬は蛸も見ることができ豊かな川です。

### 2 「大かつらの恵米」が育つ場所 豊かな自然 糸井溪谷

糸井川の源流である東床尾山と西床尾山、鉄鉷山の三山に囲まれた自然豊かな糸井溪谷。巨岩や滝、谷を流れる水、生い茂る多様な樹木が育んできたこの場所は、人々の暮らしにも豊かな影響をもたらしているにちがいない。

### 3 糸井のシンボル 大かつら

糸井溪谷最奥部にある、樹齢約2000年のかつらの木。主幹は朽ちているが、その周りには大小約80本の木やツルが巻きつき、まるでトロの世界に出てきそうなその風貌に圧巻されます。昭和26年には国天然記念物にも指定され、地域の大切なシンボルです。

### あだちファームが作るお米1 コシヒカリ

「お米はやっぱりコシヒカリ!」とも言われる一番名の通った品種。あだちファームでもコシヒカリは外せません。つやつやとして、もちっとした触感を一度ゆっくり味わってみてください。

### あだちファームが作るお米2 ヒカリ新世紀

香り、粘り、甘味などコシヒカリの遺伝子を99%引き継いだ新しい品種。コシヒカリよりも一回り粒が大きいので独特の粒感があります。食べ応えのあるお米をぜひ味わってみてください。

その他にも、契約栽培のお米も生産しています。また、野菜は季節に平均10品目以上を栽培しており、6月からはレタスやブロッコリー、ズッキーニなど四季の野菜の出荷を予定しています。豊かな土地で、手をかけ育てた野菜もとてもおいしいですよ。

農業は厳しい職ではあるけれど、栽培するだけではなく、「多くの方に支えられて今がある。」と農業を始めて12年でとても痛感しています。今後農業がどうなっていくか分からない不安を抱えつつ、若い世代が農業に興味を持ち、農業の楽しさを知り、就農してくれることを願います。

### 主な商品取扱店

- 米** 道の駅但馬のまほろばや朝来市内の飲食店、個人販売も承っております。
- 野菜** 道の駅但馬のまほろばや朝来市内のスーパーの直売コーナーにて販売しております。

# ACTiNG

## 朝来市で活動する

### 生野マルシェ



#### MORE INFO

Facebook >> 「生野マルシェ」で検索

(右→左)  
 黒田真澄さん(副代表)  
 秋山智子さん(代表)  
 杉浦友美さん(会計)  
 安達智恵子さん  
 メンバーは10数名

*Support each other*



ある会合でたまたま居合わせた女性たち。会話が弾む中で「生野で活動している皆で手を繋ぎたい、情報交換の場があれば。」そんな思いが重なり、2014年秋に「生野マルシェ」が発足しました。グループのシンボルカラー“生野瓦の弁柄色”のように、明るく強く熱い女性メンバーが生み出す活動は、人々をパワーアップさせていく力があります。その1つ「IKUNOお散歩マルシェ」は春と秋の年2回開催。生野の古民家を活用し、作家や飲食店が出店する個性的なブースで賑わいます。そして出店者にとっても新たな経験や挑戦の場となっています。「生野には点と点はいっぱいある。それを生野の女性たちで繋ぐことでできれば。」これが生野マルシェの原点。個人で仕事をしていると悩みがちになるけど、みんなで話し合うことで色々な選択肢を見出すことができる。月1回行われるミーティングは、「何か困りごとはない？」から始まり、そこから何かが生まれる。得意な事を担い、みんな合わせて1になればいい。共に楽しく、支え合うことでそれぞれが今よりも少しステップアップしていけるように。これが生野マルシェの1番の願いです。

#### — 生野マルシェと私

普段は薬局を営みながら手作りお菓子の販売もしている杉浦さん。「生野マルシェは女性グループならではの良さがあって、やっちゃんおう！をすぐに行動に移すことができ

る。そして色々な業種や職種の人が集まるからこそ、お互いに補い合えるんだと思う。生野のまち自体を動かしていきたい。」生野の黒川地区で営む農家民宿まるつねの女将黒田さん。「マルシェの活動はみんなでやれる安心感があって、1人でがむしゃらにやるよりすごく楽。イベントを通して、出店者さん同士の横の繋がりも広がっていて嬉しい。自分自身も“外とつながりたい”という思いが叶った。」

大阪から嫁ぎ、生野で魚ヶ滝荘キャンプ場を営む秋山さん。「自分の中に熱い思いがあるというよりは、メンバーの色々な思いをどうバックアップし、組み立てていくかを考えるほうが自分らしい。こうして参加することで友達ができたり、行く場所ができた。それがすごく嬉しかった。」

#### — これからの生野マルシェが目指すもの

形にはなっていないけど、シェア店舗のような場所の提供ができたら。「まだ売るのは怖い、作るだけ。」という人にとって自信がもてる場となり、まちの中で何かをするきっかけになれば嬉しい。そして次の若い世代にこの活動を引き継いでもらいたいですね。(秋山さん) 生野に足を運んで良さに気付いてもらえる、そして住んでもらえるようになったら。その為にもイベント事をマンネリ化させないように、生野のまちから外に視線を向けて考えていけたらと思う。(銀細工工房marieの安達さん)



# WORKiNG

## 朝来市で営む、働く

### 吉井建設有限会社(和田山町)

#### 誰かのために誰かを繋ぐ、人を巻き込み循環させていく働き方 — 吉井忠大さん(代表取締役/40代)

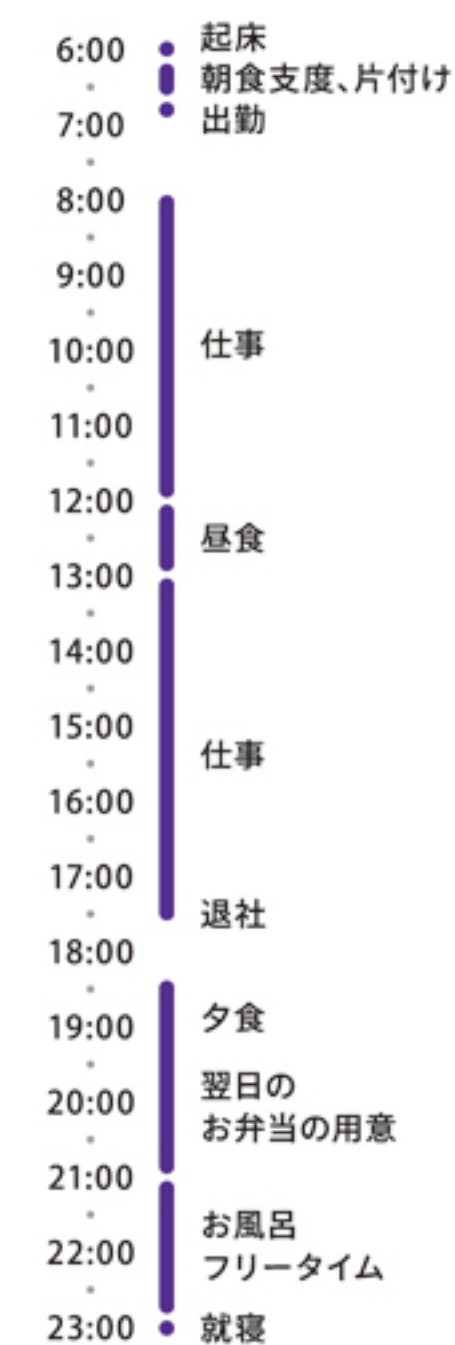
尼崎生まれの吉井さんが東河にきたのは18歳の時。先に帰郷した父親の影響もあり、のちに建設業を始めた。そうして地域で過ごす中で「ぐるぐる時代は廻り、人も廻っている。しかし今地域の建設業や農業は担い手不足などによる過渡期。そんな時代にあらゆる人が関わり、1つの踏み台やきっかけとなって今を廻していけたら。」と、竹を活用した竹パウダーをはじめ唐辛子や米を作る農業に取り組むことにした。その上で「決して自分達だけで止めない、抑えない。」との思いを大切に、人の循環を考えた仕組みを心掛け、今では新たな肥料の開発や竹・生態系の研究などあらゆる業種・人と手を繋いでいる。「僕らの世代が人口減の進むこの時代にどこまでのことができるか。次の代にバトンタッチできるように。それが小さな会社でやっている意味かなと思う。」

#### 「自分を生きる」という実感をもてた仕事。

#### — 飯野正太さん(従業員/30代)

もうすぐ吉井建設に勤めて1年が経つ。それまではなかなか仕事も続かず、何をしても「心ここに在らず」という日々。暮らしの中で人と自分が違うと感じるも、本当の自分が分からず、能動的に生きているというよりは生かされているという気持ちの方が強かった。そんな時に吉井建設に入社し、主に農業と季節によっては土木に携わることに。農業は自分の植えたものが成長していく様子が実感でき嬉しく、面白い。しかし1番の大きな喜びは、吉井社長や農業と出逢い、自分の心が求めている事、今やっていること、関わっている人、全てがリンクしてきたこと。「一連の流れを覚えて、農作業では自分がメインでやっていけるように。専門的なところで人から頼られるように頑張りたい。そして、自分の軸をしっかり持って生きていきたい。」

#### 飯野さんの一日



※温かい季節のスケジュール

#### 営む人 吉井さん



#### 働く人 飯野さん



# ITOIing

## 糸井地域(和田山町)

### 自ら作り出す ここでの暮らし、人の輪 地域の明日

西床尾山や東床尾山、その昔金山として栄えた床尾山系の山々に囲まれ、谷間に細長い糸井地域。長い一本道の周りは田んぼが広がり、季節によって変化するその情景と、鳥のさえずり・農作業の音・水のせせらぎ・風の音、そんな穏やかな音と共に流れる日常がなんとも心地いい所です。また糸井では地域の人々が一堂に集まる行事が多いのです。それは何百年も続くものから、最近始まった新しい取り組みまで実に様々です。いつの時代だった地域に住んでいる人は“他人”ではなく、一緒に暮らしを楽しむ“仲間”であってほしいと願うからです。



### 糸井のシンボルを巡る

糸井のシンボルは1つじゃありません。**大かつら(d)**に**糸井溪谷(e)**、**糸井川(f)**に飛び交う。そして**糸井小学校(g)**の校歌にも出てくる、存在感ある床尾山。標高800m弱の**西床尾山**と**東床尾山(h)**は登山やハイキングも楽しめ、天気の良い最高峰には、丹後の天橋立までも眺めることが出来ます♪歩くたびに目に現れる糸井のシンボル。神秘的な空間の中で最大のリフレッシュをぜひ!

### 寺内さんざか踊り

毎年7月第3日曜日、**山王神社(a)**で奉納された後に、別当寺である**光福寺(b)**境内でも踊られる太鼓踊りの神事です。さんざか踊りは400年以上より始まったと伝えられており、天下泰平・五穀豊稔・子孫繁栄を祈念し、その長い年月を受け継がれてきました。昭和44年には兵庫県指定無形民俗文化財に指定されています。観覧は誰でもできるので、ぜひお越しください。そして糸井に伝わる歴史と歴史を継いでいく人々の想いに触れてみて下さい。



### 収穫祭・ウォーキング大会

毎年11月第2日曜日に**すこやか広場(c)**にて開催されるこのイベントには、地域内外の人が集まり賑わいます。ウォーキング大会では、指導員の方による歩き方や靴選びのポイントなどミニ講習会もあり、その後約3kmを歩きます。収穫祭では、さつまいも堀りを楽しんだり、歌謡ショー、大人と子どもの交流イベント、都市部との交友イベントも同時開催! 食べ物のバザーや農産物の販売もあるので1日たっぷり遊べます☆たくさんの人と交流し、ぜひ糸井に溶け込んで下さい!



## EVENT



● **山王神社(a)**

● **光福寺(b)**

● **すこやか広場(c)**

● **市民農園(i)**

● **和田商店(j)**

● **糸井小学校(g)**

● **和田山郷土歴史館**

近世から現代にいたる人々の暮らしに関する多くの資料を展示しています。豊富な民具や生活用具に若い世代は新鮮さを感じることでしょう。



### 30年以上引き継がれてきた事

形を変えながらも、文化祭や床尾のついで(敬老会)、節分など30年以上続いている行事がたくさんあります。昨年の文化祭では2日間で延610人の来場があった程、それぞれの規模は衰えることなく、どんどん大きくなっているそうです。“毎年繰り返されること”は決して退屈な事じゃない。同じ場所で今年も同じ顔ぶれに会う、新しい顔ぶれが仲間になる。とっても素敵な喜びです!



### 未来ある子どもたちに伝えたい

糸井に住む子どもたちを対象とした“土曜チャレンジ学習”。地域の大人がスタッフとなり、年間を通じて、糸井川観察やミニ門松作り、登山やそば打ち体験、文化祭への出店・参加など様々なことにチャレンジします。そんな活動を通して、新たな発見と感動を味わい、声を掛け合う親しい人間関係ができます。“ここで暮らす楽しい記憶”が増えていきますように。



### コサカゼ地蔵

昔から「探し物が見つからない時にここにお参りすればよく見つかる」と伝えられました。だいたい3~5日で探し物が見つかるそうです!

### 糸井川(f)

蛍が飛び交う綺麗な川。子どもたちの遊び場ともなっており、放課後や土日に行くこともあるそうです♪



### 変わらない景色があることを大切に

農業と暮らしが密接な糸井。田畑の担い手が減っているこの時代でも、「田畑を守りたい」と糸井の多くの田んぼが休耕田になることなく今日も維持されています。そんな農地を利用し、糸井地域自治協議会では**市民農園(i)**も設けています。絶対利用者募集中! 農機具のレンタルもしているので家に道具がなくても安心です! 自分のペースでナチュラルライフを始めませんか?

## PERSON of ITOI

### 田中さん



田中さんは、糸井や枚田岡で開かれている太極拳教室の講師を務めている。6年前、子育てがひと段落し、友人が太極拳をしていたため、軽い気持ちでスタートした。太極拳は呼吸・体・しぐさを全部合わせる。「理想になかなか辿り着けないからずっとやれる。」1つ1つ課題をクリアし、検定を受け、気が付いたら人に教えるまでになっていた。イベントや講習会、教室を通し人の輪もどんどん広がっていく。「自分と関わった人に、『あぁ面白い人だな』と思ってもらえるように。悔いのないよう自分のできることに全力に。」教室:金曜日10:00~11:30(糸井地域自治協議会)・水曜日19:30~21:00(枚田岡会館)見学可

### 和田さん



**和田商店(j)**を営んでいる和田さん。お客さんとの会話から常にヒントをもらいお店を営業してきた。もともと酒屋だったが、ちょっと珍しい自然食品や卵に乾物、日用品などお酒以外の商品の販売も始めた。かつてのような、谷ごとの小売店も無くなり、買い物が難しいお年寄りの方が増えてきたからだ。「この糸井に住んでいてなるべく不便のないように。自分に出来ることは“買い物”を助けること。」“糸井地域の今とこれからの暮らしを守りたい”和田さんからそんな思いが伝わってくる。都市部との交流窓口も担い、婚活イベントもした。「若い人が糸井に住みたい、帰ってきたいと思える環境を仲間と共につくりたい。」

### 大森さん



大森さんは、家族5人で自然とともに循環した暮らしを営む。月に2回パンを焼き、米や野菜を育て、養蜂や山仕事を。奥様は絵の作品制作をする傍ら、野草から草木染めや野草料理を作る。暮らしから丁寧に紡ぎだされたモノは“**山の一家\*葉根舎(k)**”として販売する。料理やお風呂は全て裏山の薪で。暮らしの中でそのものにかかる時間を大切に、生活のリズムを自ら作り出す。また、地域の区長も務める大森さん。「普段していることを地域の子どもたちに伝えていけたら。この地域の本当の良さに気付いてほしい。」今年“土曜チャレンジ学習”で薪の使い方を教える。豊かに生きる選択肢や技術を伝えていくその役割は大きい。

### 岡本さん



小学校の先生を34年務めた岡本さんは「子どもたちが自分で主体的に物事を考え行動する。」をモットーに、運動会や卒業制作など様々な場面において出てくる子どもたちからの豊かなアイデアを後押しする熱血教師だった。今年、教師生活を引退したが、「今後は“地域のおっちゃん”として子どもたちに色々な経験をさせてい。」と“土曜チャレンジ学習”のスタッフに。「糸井に住んでいても知らないことや、自然の中でこんなしたらおもしろい!という体験をさせたい。厳しく叱ることも。ここでずっと一緒に楽しく住み続けたいから。」本当の楽しささをもっと身近にある。そんなことを自ら楽しみながら体現し伝えていっている。

### 糸井地域について

面積:約37.4km<sup>2</sup>  
人口:2,775人  
(住民基本台帳:H29.2月末)

### お問い合わせ(糸井地域自治協議会)

079-672-4080  
080-1426-6333  
Mail >> itoi-jichi@asago-net.jp

### 和田山駅前元気まつり

楽しいステージイベントや美味しいお店がたくさん出店し、その名のとおり和田山駅前を「元気」にするイベントです。ぜひ、遊びにお越しください。

【日時】7月15日(土)  
14:00~19:00(予定)  
【会場】朝来市役所本庁舎前  
まちづくり広場  
【その他】詳しくは、後日配布予定のチラシ等をご覧ください。  
【主催】駅前元気まつり実行委員会、駅前区

### オオサンショウウオ夜間観察会

特別天然記念物「オオサンショウウオ」ってどんな生き物?不思議がいっぱいの生態を勉強し、夜の市川で、生息しているオオサンショウウオの調査風景を観察します。黒川温泉でゆっくり温泉に入り、おいしい夕食を食べ、その後観察会をお楽しみください。

【日時】7月22日(土) 8月19日(土)、10月14日(土)  
19:00から2時間程度  
【会場】日本ハンザキ研究所  
【費用】大人1000円、中学生以下無料  
【申し込み】事前に申し込みが必要です。詳しくはホームページ(www.hanzaki.net)をご覧ください。  
【問】FAX. 079-679-2939 MAIL info@hanzaki.net (NPO法人日本ハンザキ研究所)

### 酒蔵音楽会

地酒「竹泉」を手がける創業元禄15年(1702年)の田治米酒造(朝来市山東町矢名瀬町)の酒蔵で行われる音楽会。歴史を感じる老舗酒蔵を舞台に、朝来市観光大使を務めるヴァイオリニスト・山内達哉さんたちが奏でるクラシック音楽で、極上の一時を過ごしませんか。

【日時】8月18日(金)  
1部開演17:00頃/2部開演19:00頃  
【場所】田治米合名会社  
【費用】未定(ワンドリンク付きで500円程度の予定)  
【その他】詳しくは、後日配布予定のチラシ等をご覧ください。  
【主催】山東新生まちづくりの会(okinareyo.jugem.jp)  
【問】079-676-2080(朝来市役所山東支所地域振興課)

## あなたはまちの未来 ASAGOING

まちは全て、誰かの「やってみよう」からできています。  
特にオープンマインドな朝来市は、「やってみよう」が多いまち。  
目を凝らせば、あなたの周りにも「やってみよう」がいっぱい見つかるはず。  
何かを頑張っている人を見ると、ちょっと嬉しい。  
そんな人を応援できたら、もっと嬉しい。  
自らやろうと思って実現できたら、そりゃもう毎日が楽しくなる。  
そんなあなたの「やってみよう」を応援しています。

少子高齢化、人口減少が進むなかで、朝来市の次の10年、20年を創りあげていく若い人たちに、「このまちが好きだな」と思ってもらいたい。好きになって住み続けてもらいたい。そんな「気持ちに届く」シティプロモーションが「あなたはまちの未来 ASAGOING」。他の誰でもない市民一人ひとり、「あなた」が主役となって朝来市の魅力を届けるシティプロモーションを目指しています。



### ACCESS

#### 自動車をご利用の場合

大阪・京都より約2時間  
神戸より約1時間30分

#### 鉄道をご利用の場合

大阪・京都・神戸より  
特急で約2時間

### あとがき

実はこの記事執筆している頃、ちょっぴり考え事をしていました。「仕事でこんな人と繋がってみたいな」とか「仕事や家庭以外に夢中になれる趣味が欲しいな〜」とか。そして、これまた不思議と、そんな話をしてくれる人に出逢うんですね。いつもそういうことが起こる度に思います。“念ずれば引き寄せろ”ということも、皆さんも“出逢いたい”と思っているまだ見ぬ仲間に出逢えますように。それがこのASAGOINGがきっかけだったなら嬉しいです。(SHIHO)

発行日:2017年6月5日

発行元:朝来市あさご暮らし応援課 TEL 079-672-1492  
〒669-5292 兵庫県朝来市和田山町東谷213-1

企画/編集:Team ASAGOING

テキスト:SHIHO

アートディレクション/デザイン:木村淳